

2.2.28

佐倉市

# 教育センターだより Vol.50

令和2年2月28日発行／佐倉市教育センター／TEL. 043(486) 2400 [http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0\\_6.html](http://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/13-6-0-0_6.html)

## 過去の教訓を生かして

佐倉市教育センター所長 榎 本 泰 之



大川小学校の倒壊した校舎と体育館通路

2011年3月11日午後2時46分東日本大震災が発生しました。当時は、中学3年生を帰宅させた後、翌日に卒業式を控え、職員室で打ち合わせをしていました。1・2年生は、卒業式の準備を終えて帰宅した生徒もいれば、準備時間中に終わらなかった教室の装飾をしている生徒、体育館で楽器の準備をしている吹奏楽部の生徒など様々でした。発生直後、慌てて体育館に向かい、天井から木片が降り注ぐ中、吹奏楽部をグランドに避難させ、その後各教室を回り避難状況を確認しました。何度も余震があり、窓ガラスが割れないことを祈りながら、動揺している生徒の気持ちを落ち着かせたのをつい昨日のように覚えています。翌日の卒業式は延期になり、翌週になんとか実施することができました。

各地で起きた甚大な被害の中に岩手県石巻市立大川小学校があります。校庭にいた児童78名中74名と教職員11名のうち10名の計84名が津波の被害に遭い、未だ4名が行方不明となっています。3年前の3月にその大川小学校へ訪れる機会がありました。そこには震災当時の校舎や犠牲になった子どもたちの名前が刻まれた慰霊碑などがあり、震災の爪痕が深く残っていました。3月とはいえ強風が吹きとても寒い中、茫然と被害にあった校舎を見ている人や校舎の周辺を無言で歩く人、その場にしゃがみ込んで手を合わせて涙を流す人など、多くの方々の姿がありました。そのような光景を見て、津波の恐ろしさを実感すると共に被害に遭われた子どもたちや先生方の無念や恐怖を思うと、いたたまれない気持ちになりました。なぜすぐそこにある裏山に避難しなかったのかという思いもありましたが、先生方は地震の恐怖の中、子どもたちを守るための最善の方法を考え、必死の思いで避難させたのでしょうか。しかし、結果はとても痛ましいものとなりました。

昨年の11月に津波の犠牲にあった遺族が起こしていた裁判が結審しました。その裁判では、学校の実情に沿った危機管理マニュアルの改訂の必要性が問われ、子どもたちを預かる学校現場の責任の重さが浮き彫りになった形となりました。大川小学校で被災した、当時小学生だった方が次のように話しています。「学校の避難訓練は、校庭に避難して点呼をとって終わりで、津波の避難訓練はしていなかった。しっかり訓練していれば、震災当日も川の様子を確認したりして山に避難できていたかもしれない。」と。

昨年、佐倉市でも台風や記録的な大雨で甚大な被害を受けました。特に大雨の際には、子どもたちを下校させるか、学校に留まらせるかなどの判断に苦慮した学校も多くあったことと思います。また、今年の1月には流山市の中学校に刃物を持った女性が侵入した事件も発生しました。想定を超えた災害や事件が多発する中、我々教師の一瞬の判断が子どもたちの命を左右することになります。大川小学校のような悲惨な出来事を二度と繰り返さないために、過去の教訓を生かしていくしかなければなりません。子どもたちにとって教師の存在は大きく、教師の発言や指示は絶対的なものとなります。我々教師は大切な子どもたちの命を預かっているという自覚を常に持ち、日々の教育活動を推進していくことが大切だと思います。



避難予定のルート

# 令和元年度 全国学力・学習状況調査

全国学力・学習状況調査の結果より、佐倉市の児童生徒の学習状況について結果に見られる特徴と現状分析及び改善策についてまとめました。

## 小学校の特徴と現状分析

※ ○良好なもの ▲課題となるもの

### 【国語】

○文と文との意味やつながりを考えながら接続語を使い、内容を分けて書くこと。

▲相手に質問をする時に、目的に応じて質問を工夫すること。



### 【算数】

○示された棒グラフから、資料の特徴を読み取ること。

▲図形の面積の求め方を理解し、その説明を記述すること。

### 【質問紙】

○基本的生活習慣や規範意識、挑戦心、達成感。

▲自分の考えを発表する時に、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫しながら話すこと。

## 小学校の改善策

★**国語**…話を聞く時には、「何のために、どのような情報を聞きたいのか」目的を明確にしてから聞く。また、話の展開にそって、目的に応じた質問の仕方を考えることで、相手の意図を捉えた質問をできるようにすることが大切である。

★**算数**…図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにすることや、色板などの具体物を操作しながら、図形を構成したり分解したりしながら、図形の見方や感覚を豊かにすることが大切である。

## 中学校の特徴と現状分析

### 【国語】

○文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつこと。

▲話し合いでの発言について、説明したものの中から、相手にわかりやすく伝わる表現を選択すること。



### 【数学】

○平行移動の意味を理解し、平行移動したときの移動距離を求めること。

▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

### 【英語】

○語と語の連結による音の変化を捉え、情報を正確に聞き取ること。

▲書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書く人の意見などを捉えること。

### 【質問紙】

○挑戦心、達成感、規範意識、部活動参加。

▲自分の考えを発表する時に、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫しながら話すこと。

## 中学校の改善策

★**国語**…自分の考えをわかりやすく伝えるためには、話す速度や音量、間の取り方、相手にわかりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いを意識して話をすることが大切である。

★**数学**…問題解決の方法を数学的に説明するには、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることが大切である。

★**英語**…自分の考えを述べる時には、内容を理解するだけではなく、読み手として、主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切である。

## 児童生徒質問紙と学力のクロス集計より

「今までに受けた授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。」との質問に対し、肯定的な回答をした児童生徒（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）の方が正答率が高い傾向にありました。日頃から課題に対し、自分で考え、自分で取り組む習慣をつけていくことが大切であるということがわかります。



# 学校図書館の活性化

## ～魅力ある図書館づくり～

佐倉市では11名の学校図書館司書が各学校に配置されています。1人の司書さんが3~4校を担当し、基本的に各学校に週1回勤務しています。司書さんは、学校図書館がたくさんの子どもたちに活用されるように、様々な工夫をし、活動しています。

### 学校図書館司書の仕事とは？

○学校図書館の活性化及び学校図書館運営の向上を図るための支援を行います。

主な仕事は

#### (1) 学校図書館担当者の業務遂行に対する支援

- ①図書の整理や管理
- ②図書の貸し出しや返却
- ③電算システムの運用
- ④購入図書の選書
- ⑤図書の利用に係る統計調査
- ⑥広報活動
- ⑦児童生徒の委員会や係活動の運営
- ⑧学校図書館に係る施設や備品の整理・管理などへの支援



#### (2) 読書活動や調べ学習などに対する支援

- ①朝の読書、授業に活用する図書資料の用意
- ②読書活動に関わる学校行事などへの支援

#### (3) 学校図書館の運営や読書活動に関わる活動の渉外に対する支援

- ①公立図書館との連携
- ②他校学校図書館との連携
- ③保護者や図書ボランティアとの連携などへの補佐・支援

### 学校図書館司書研修会

学校図書館司書は年4回研修を行い、各学校の状況などの情報交換をしたり、講話を聞いたりして、学校図書館の活性化に努めています。

今年度の第3回の研修会では、染井野小学校にて、学校図書館司書教諭から、染井野小学校の実践発表をしていただきました。最近よく行われるビブリオバトルに取り組んだ時の様子を映像で見たり図書委員会の活動の様子を紹介してもらったりしました。

ビブリオバトルの様子を映像で見た後は、短い時間でも取り組めるような工夫がされていたことから、他の学校でも取り組んでみたいなど、意見交換も活発に行われました。学校図書館活性化に向けて、各学校で取り組んでみてはいかがでしょうか。



### 市民の図書ボランティアさん

○学校図書館の装飾、本の修繕、蔵書点検など、子どもたちが本に親しみ、訪れたくなるような環境づくりのお手伝いをしていただいています。

○教育センターが「こうほうう佐倉」を通じて募集を行い、7名の方の登録がありました。

○市内の小中学校の学校図書館で活動しています。



# 授業のユニバーサルデザイン推進・Part3

～インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として～

「授業のユニバーサルデザイン」とは、「授業全体を子供たちにとって分かりやすい授業にしていくことの総体」です。教育センターだよりでは、Vol.47でインクルーシブ教育システム構築のために、「授業のユニバーサルデザイン」と「合理的配慮」の融合が必要であること、Vol.49で「『わかる・できる』授業づくり」をするためのポイントを掲載しました。本号では、さらに具体的な手立てや実践例を紹介します。

## 「わかる・できる」授業づくりのキーワードは3つ

### 焦点化

### 視覚化

### 共有化

- ☆授業のねらい、活動をしほる  
→ねらいは何か?  
→やることは何か?  
→ゴールは何か?

- ☆視覚的な手がかりを効果的に活用する  
→1時間の流れ、ルール、ねらい等の「見える化」

- ☆全員が参加できるように話し合い活動を組織化する  
→ペア、グループでの伝え合い、教え合い



## 教室環境の工夫

- ・授業や活動に取り組みやすくなるような工夫
- ・安心して学習したり生活したりできるような雰囲気づくり



### 焦点化

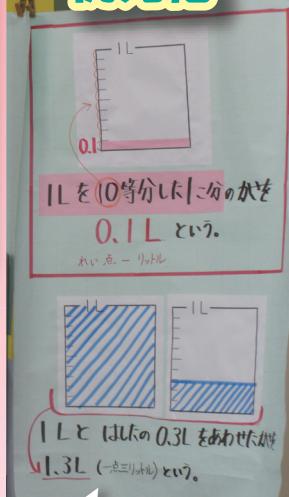
6/27

長方形や平行四辺形、ひし形を、1本の対角線で2つに切って、それを使、いろいろな四角形をつくりましょう。

四角形を対角線で切って、組み合わせると、どんな四角形ができるだろう。

シンプルな学習課題の提示により、本時のめあてがわかりやすく、主体的に取り組むことができる。

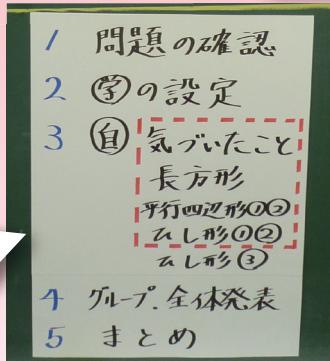
### 視覚化



### 共有化



かがわかる。  
より  
もち、  
活動内  
容の具  
体化に  
活動に見  
通しをす  
ればよ  
い



絵や図の活用により、学習課題をイメージしやすくなる。

少人数のグループで自分の意見を説明したり、友達の意見を聞いたりして考えを深めることができる。